

川添・林・腰原・大岡スタジオ



蓼科高原別荘地上空より北面を望む

[テーマ]

Building Environment of 'Both Urban and Rural'

—歴史・構造・環境を統合して、都市と非都市の関係を編み直す、新たな住まいを設計する—

[敷地]

長野県茅野市・蓼科高原別荘地 <https://www.alpico.co.jp/tateshina/>

[スタジオの目的]

- ・ 都市と非都市の関係を編み直す、新たな暮らし方の考案
- ・ 蓼科高原別荘地でのフィールドワークや具体的な敷地での設計をとおした環境との対話
- ・ 構造・環境の専門家によるエスキスを踏まえた、構造と環境を統合したビジョンによる設計案と矩形図の作成
- ・ 課題終了後の現地での成果発表会による現地への還元と、住民や事業者との意見交換

[趣旨]

「都市か非都市か」の選択を迫られるのがこれまでの社会だとすると、デジタル・トランスフォーメーションや交通の技術革新が起きるなかで、「都市も非都市も」という暮らしがより身近になってきました。本スタジオでは、歴史・構造・環境など多様な視点を取り入れながら、その両立を実現するような建築を設計してもらいます。

「都市も非都市も」という欲望は、もちろんこれまでも人々は持ち続けてきました。そのツールの一つに別荘があります。別荘とは、人工物の集積する都市部に欠けているものを補完する建築だといえるかもしれません。そこで本スタジオでは、1970年代に開発された長野県の蓼科高原別荘地を具体的なフィールドに、単にこれまでの別荘地をなぞるのではなく、都市と非都市の歴史的な関係を編み直すような、新たな住まいを考えていきます。

別荘地で建築をつくることは、喩えるなら、東京を反転させた環境で建築をつくることでもあります。取り巻く自然環境も大きく異なり、利用可能な資源や気候条件も変わります。そのため、構造や環境にも着目してもらいます。具体的な敷地で、歴史、構造、環境などの多様な視点を統合しながら、新しい別荘地の姿を設計してください。

概要

指導担当：川添善行＋林憲吾＋腰原幹雄＋大岡龍三

＋小南弘季（川添研助教）＋向山裕二（**ULTRA STUDIO** 共同主催・一級建築士）

エスキス：① 生産技術研究所 S202 川添研究室、他（場合に応じて Zoom でのオンラインエスキス）

② 現地合宿*（2泊3日@蓼科高原別荘地）

初回ガイダンス：4月5日（履修者決定後オンライン開催）

最終成果物：建築図面、模型一式およびプレゼンボード

協力：アルピコリゾート＆ライフ株式会社（旧東洋観光事業）

アルピコ蓼科高原リゾート株式会社（旧アルピコ交通）

公益社団法人長野県建築士会諏訪支部